



2022年度 強化委員会 4カ年計画

特定非営利活動法人日本デフバスケットボール協会

ゼネラルマネージャー／強化委員長

須田 将広

目標

2025年東京デフリンピックでメダルをとる(男女とも)

目的・と、手段○

- バスケットボール競技のレベルアップ(監督、スタッフ、選手)
 - バスケットボールの有識者から、現代バスケの戦術やスキルを学ぶ(外部連携)
 - デフバスケットボール選手の競技レベルの底上げをする(スキル、体力、精神)
- デフチームコミュニケーションの確立(ビバリード提唱のサインバスケ)
 - バスケットボール競技において利便性が向上する『サイン』を取り入れる
 - チームでコミュニケーションする機会を多く設ける(大会、合宿など)

目標

未来を担うデフキッズを、世界に通用する選手へ育てる

目的・と、手段○

- バスケットボール競技の育成内容から学ぶ
 - バスケットボールの有識者から、現代バスケの育成を学ぶ（外部連携）
 - 外部の実績のあるクラブチームから講師を依頼してクリニックなどを開催
- 情報保障の質向上
 - クリニックなどイベントで情報保障を入れる方法を確立させる
 - 質疑応答を介して、双方の「深い対話」を試みさせる

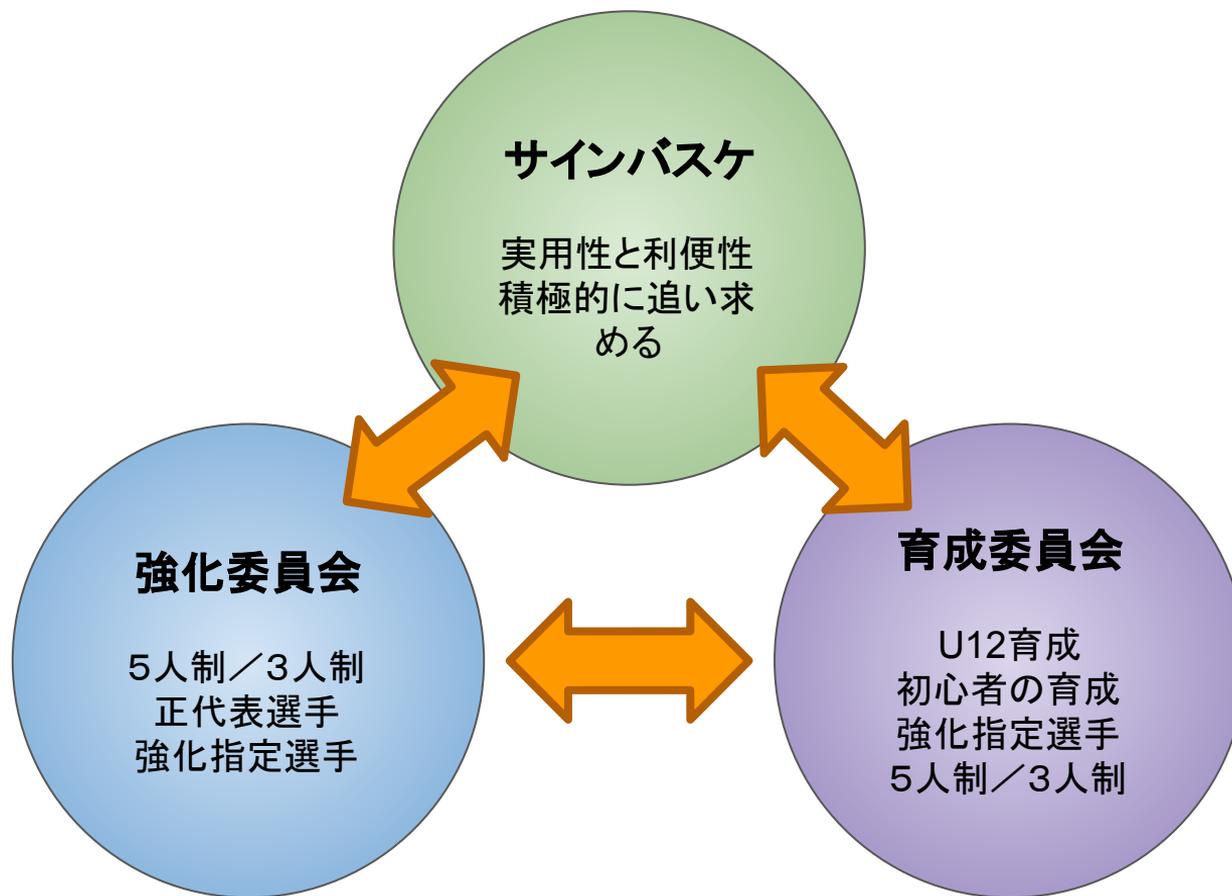
目標

バスケット競技に特化したサインを探求し、サインバスケットボールへ昇華させる

目的・と、手段

- デフフットダの概念を学ぶ(なりうる最高の自分を目指す)
 - 日本手話、手指日本語、日本語(音声含む)の共通理解を深める
 - 関連する講習会を開き、上記の相互理解の質をさらに高める
- サインバスケットボールを探求し、さらに洗練させる
 - バスケット競技に特化したサインを創り、全ての人にとって利便性のあるものに昇華
 - チーム全員の共通理解と深い対話が必要(ディスカッション形式など)

4カ年計画のコア(2022～2025年までの4カ年計画)



中長期計画(2022～2025年までの4カ年計画)



項目／年度	2022年度	2023年度 世界選手権	2024年度 アジア太平洋	2025年度 デフリンピック
サイン バスケット	講習会を数回開催 理解と浸透に集中！	講習会を数回開催 実用化に向けた実験 実際に試合で使う	実用化に向けた実験 実際に試合で使う ブラッシュアップ	サインバスケットの完成
育成	U12向け育成イベント U12以外の初心者育成 情報集め、広報 (個人力と基礎力の強化)	U12向け育成イベント U12以外の初心者育成 情報集め、広報 強化指定選手確定 個人力と基礎力の強化	以降は、左に同じ (育った強化指定選手は強化へ送り込む)	
強化 (5人制)	スカウティング 監督と選手の候補集め トライアウト開催 (個人力と基礎力の強化)	正代表確定(12人) 強化指定選手確定(10人) 個人力と基礎力の強化	チーム力の強化 対外試合を繰り返す	夏が本番！！ ※正代表12名 ※強化指定選手10名

※ 3人制の正代表選手／強化指定選手は別途計画予定(大会の有無をまず確認する必要あり)

スケジュール(2022～2023年6月まで)



- 2022年ブラジルデフリンピックを機に日本代表チームを解散
- 2025年東京デフリンピック(誘致中)に向け、JDBA理念に基づいた体制へ

年度	1～3月	4～6月	7～9月	10月～12月
2022年	—	4/15 新体制 スタート 5/21-22 デフバスケ交流会@奈良 監督選任 (一次)	7/1-3 選考合宿@福島 8/19-21 サマーキャンプ@福島 9/17-19 全国ろうあ者体育大会	10/1 デフバスフェス@福岡 11/11-13 選考合宿@福島 →東京に変わる可能性あり 12/11 デフバスケ選手権大会 (エネオスカップ)
2023年	月1回の頻度で 強化合宿@東京	6/9-6/11 強化合宿@福島 6/12-24 世界選手権@ギリシャ	月1回の頻度で 強化合宿@東京	月1回の頻度で 強化合宿@東京



付随資料

・デフバスケットボール日本代表正選手／強化指定選手の選考基準について

<https://jdba.jp/jdba/deafjapan/wp-content/uploads/2022/06/2022JDBAsenkoukizyun.pdf>

B-BALLY'd資料抜粋

一般社団法人B-BALLY'd代表理事

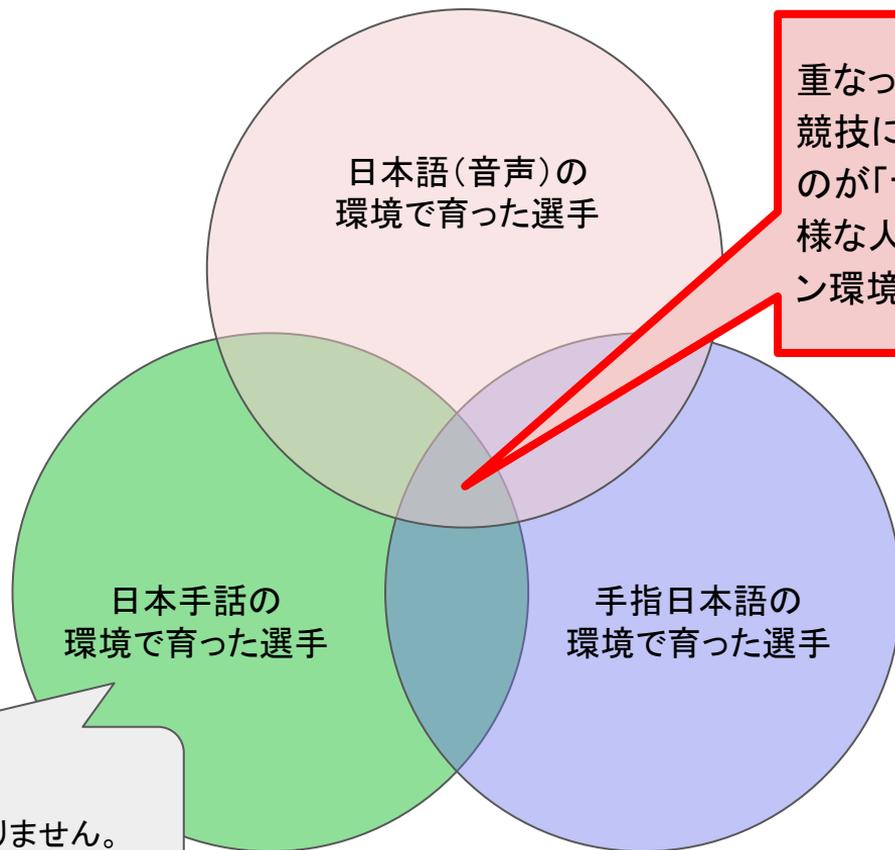
須田 将広

事前に

- **日本語(音声含む)**
 - 日本における一般的な音声言語のこと。
- **手指日本語**
 - 手指だけで日本語を視覚化したもので、文法体系は日本語と同じ。
- **日本手話**
 - 手の形、位置、動きをもとに、表情も活用する独自の文法体系をもった手話言語として法律で認知され、守られている。

これらは、聞こえない人や聞こえにくい人、手話通訳者を含めた聞こえる人たちのための言語であり、お互いの共通理解を深めるためのツールである。

「サインバスケットボール」が目指すもの



重なっている共通部分の中でバスケットボールに特化したサインを創り出したものが「サインバスケット」であり、多種多様な人々が織りなすコミュニケーション環境である。

勘違いされやすいのですが、日本手話の中に日本語はありません。

サインバスケットボールの定義からはじめてみる



- サインバスケットボールにおける優秀なコーチとは？
 - 多くの情報から最適解を選択できるコーチ(従来)
 - 最適解を適切な言語もしくは方法で瞬時に伝えることができるコーチ(新定義)
 - 方法の例:サイン、ロールプレイ、視覚共有順、ハンドシグナルなど(福島動画参照)
- 個別にスキルを磨いてもデフの試合では生かせない
 - 耳が聞こえない状況を生きたまま切り取って練習する方法の確立(生命論パラダイム)
 - デフと言っても聴覚障害の程度も違うし、使う言語も異なるのでどう確立するのか
- 選手が自ら成長するのを邪魔しない(指導者として最低限の倫理)
 - 環境が邪魔をしていることに気づき、改善することも指導者の役目のひとつ
 - 日本語を排除し、バスケットに必要なサインのみにするなど、思い切りのある指導者

バスケットボールからサインバスケットボールへ



- **バスケットボール競技経験のデフがサインバスケットボールを身につけるには**
 - 適切な言語もしくは方法で **周りと深い対話** ができること
 - 適切な言語もしくは方法で自分の意志を **周りに瞬時に伝えられる** こと
 - 視覚的に情報を読み取る技術(例:手話で話すときは顔と手を同時に見て判断)
- **日本代表チームを構築する**
 - 最も優先すべき練習は何か？
- **オープンスキルの中にサインをどう入れるのか**
 - 目で見えて判断する材料に、**「手」「表情」「空間」**を加える
 - 3次元(音声)から4次元(+空間)へ

スキルの変化(進化であり、退化ではない)



- **トリプル・スレットをドリブル・スレットへ**
 - トリプル・スレットはボールを両手で持ってしまう
 - ドリブル・スレットでシュート、パスをいつでも出せるようにする
- **パスは全てワンハンド(転がす意識から)**
 - 持ってしまうとバスケが止まる(ピボットしかない状況)
 - ワンハンドならパスフェイクも身につけやすい
- **肩を動かさない**
 - 肩がぶれると視野もぶれる
 - 両肩と眉間を3点で意識し柔らかく固定してドリブルすると、視野は確保しやすい